

# 金澤北ロータリークラブ



写真：関 稔(会員)

■金沢 ■北郊 ■散策

## 滝の白糸像

橋場町

滝の白糸ゆかりの梅ノ橋のもと。平成3年園遊会の5周年を記念し各方面からのご協賛を得て建てられた。太夫のモデルは今は亡きひがしの“美ち奴”さん。金沢RCの小松亮一先生の監修で、制作は南RCの得能節朗先生に依頼した。センサーに手を当てると扇の先から水が立ち昇る仕組。4月12日、浮き舞台で平成滝の白糸・水芸が演じられる。

## 外国人犯罪について

金沢中警察署署長 片田 外美三氏



本題に入る前に、伊丹十三さんが自殺したお話しをさせていただきます。伊丹さんが死んだ損失と、国民の知る権利の為にプライベートなことを週刊誌に出すメリットの、どちらの方が比重が重いのかなということも皆さんも考えて見られたらどうでしょうか。

外国人犯罪が今年に入って全国的に急増しております。なぜ外国人犯罪が多くなったのかということなんですが、基本的に申しますと、非常に不法滞在者の外

国人が多くなったということです。日本に不法滞在している外国人は、30万人おります。これは短期滞在、例えば観光とか興行ビザで入って来ます。その連中が、期限が切れても帰って行かないのです。それから去年の暮れから、急に中国の方からの集団密航が増えております。今日現在、全国で1200人の集団密航者が警察と海上保安庁の方で捕まっておりますが、大半は捕まっておらず、その数は約10万人います。これら、約40万人の外国人が何をしているのか、どこに住んでいるのかという事が分からないから問題があるのです。彼等は、仕事をしながらしっかり日本語学校へ行って勉強しようとかして、来ているのです。しかし日本の社会もバブルがはじけたら、仕事をする場所が限られて来たのです。それならば一獲千金を狙ってやろうという事なんですね。日本で、今、確実に定着しているのが蛇頭というグループです。香港のマフィアですね。これと日本の暴力団とが結託して、犯罪やいろんな事件を起こすシステムが、もう出来上がっています。そして、稼いだそのお金を本国へ送るシステムがあるから問題になるのです。正規のルートでお金を送りますと、非常に手数料も高い、それから送る時には身分証明を提示しなければいけない。だから、地下銀行へ頼む訳です。東京の地下銀行へお金を送ると、手数料は0.5%で、翌日にはもう向こうの家族の方にお金が渡るというシステムです。それをいかにして摘発するか、というのが難しい。と言うのは、そのお金を送ったという事実を証明しなきゃならないでしょう。だから、あの手この手で向こうの国との折衝で、いろんな形で協力を求めているのが現在の姿であります。去年は、外国人犯罪は、麻薬とか覚醒剤とか、売春とかいうのが多かったです。それが、一般犯罪にまで入って来たという所に問題があります。これから21世紀に向けて、犯罪も確実に国際化されております。通訳の問題、語学力の要請の問題、いろいろあります。それを一つ一つクリアしながら、これらの問題に対処していかなければならない今日であると思います。

(文責 榎並 誠)

## 球技大会

3月15日(日)、職業奉仕委員会主催のテニス大会が、雪のふる中、スポーツクラブV10で行われました。今回は例年と違って、バドミントンと卓球は行わず、テニスのみでしたが、新種目にもかかわらず約40名の会員、御家族、知人の方、職場の方等が集まって熱戦をくりひろげました。第一部は阿部、小林組(歯科医師会)が優勝となり、第二部では本会の榎並さんペアが優勝してチャンペンを獲得されました。本大会を開くにあたりまして心良く無償で会場をお貸し下さいましたV10社長・南ロータリーの新保弾次様に深く感謝の意を表したいと思います。(炭谷亮一 記)



もう一人の私



## 天才釣り師？

江守 巧

昨年7月の午後、大鯛をねらって福井鷹巣港、なじみの釣り船で沖に出た。真っ青な空、碧く澄んだ海、近くには小魚をねらって海鳥が群れていた。瀬に着き錨を下ろし船が止まって第一投目、一番胸が踊る瞬間である。オキアミを餌に重りなしで釣るふかせ釣りだ。「鳥山が立っている時は小魚を追って青物が廻るとんにやて。」船頭の福井弁を聞きながら潮の流れに乗って道糸はするすると出ていく。小さな当たりがあり、一投目からとは幸先がよいとリールを巻いた。上がってきたのは手のひら大の小鯛である。これでは釣った魚は食べる主義の私も「お父さんかお母さんを連れてこい！きれいな姉ちゃんならもっと良い。」と逃がしてやった。さて第二投目、20m位道糸がでた時突然すごいスピードで道糸が走る。リールを止めたが唸りを上げ道糸は出ていく。約15分の格闘の末に上がったのは78cmのヒラマサ。哀れな小アジが一匹、背中に空針が刺さり「く」の字になっていた。竿をそのままにヒラマサの血抜きをして、やおら竿を見ると何か引いている。持ち上げると小アジの尾をくちばしからのぞかせカモメがもがいていた。船頭の「きれいな姉ちゃんなんちゅうアホを言うから鳥なんぞ釣るんにやて」の笑い声にこわごわ糸を切って逃がした。でも心中は、鳥を釣ったなんて聞いたことがない、ひょっとして俺は?????とんでもない一日でした。



